

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 4月 3日

事業所名 放課後等デイサービス椋の木

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	より良い療育がおこなえるよう、基準値より広めのスペースを確保しています。	
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	より良い療育がおこなえるよう、人員基準より多い人員の配置をしています。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	86%	14%		悪天候時の屋外への移動、車両についての検討会議を行っていきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	86%	14%		非常勤従業員にも参加可能な単発的なPDCAを回すための仕組みづくりも合わせて行っています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	厚生労働省の規準に従っています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	https://bright-company.jp/	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	57%	43%		外部評価は行っておらず、自社での社内評価をおこなっております。必要であれば今後、第三者評価機関への外部委託も検討していきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	86%	14%		基本的な技術向上の為の研修と合わせて従業員のニーズに沿った研修を行ってまいります。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	厚生労働省の規準に従っています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	57%	43%		医療的ケア児と発達障害児が在籍している為子供の特性に見合ったアセスメントを行うべくフォーマットは使用していない。広範囲で特徴把握可能なツールの使用を検討していきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	71%	29%		意見が散々しないようにプログラムの立案は管理職が行い目的に沿った支援をチームで行っています。従業員の能力に応じて立案にも参加出来る環境を作り努めています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%	季節ごとのイベントや個人の需要を考察し実施しています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	100%	0%	粘土毎長期休暇前に基本的なルール設定を子供たちも含め話し合っ決定しています。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	100%	0%	ケース会議を行い課題を整理しそれらに見合った活動を提供しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	86%	14%		定刻時に参加出来なかった従業員に対しても失念が無きよう努めていきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	86%	14%		翌日に、支援の振り返りや気付いた点を共有しています。緊急性のある場合はすぐに共有できる体制を作っています。従業員の終業時間も守れるように努めていきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	児童発達支援管理責任者が定期的に実施記録の記入指導を行っています。	
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	厚生労働省の規準に従っています。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	57%	43%		基本的な理念を全員が理解し実行できるような研修を行ってまいります。	

関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	基本的に児童発達支援管理責任者が参加し内容を共有しています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	57%	43%		親御様を通して連絡をしています。事業所間での連携が可能となる様関係機関との交流に努めて行きます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	57%	43%		親御様を通して連絡をしています。事業所間での連携が可能となる様関係機関との交流に努めて行きます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	29%	71%		親御様を通して情報収集しています。事業所間での連携が可能となる様関係機関との交流に努めて行きます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	71%	29%		依頼があれば提供したいが現状親御様の努力となっています。事業所間での連携が可能となる様関係機関との交流に努めて行きます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	57%	43%		親御様を通して情報収集しています。事業所間での連携が可能となる様関係機関との交流に努めて行きます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	29%	71%		騒がしい環境や変化が苦手なお子様も在籍しているので活動に取り入れていません。現状では改善予定もありません。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	14%	86%		機会があれば参加していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	SNSを利用して適時行っています。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	43%	57%		必要があれば適時支援を行っていきます。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約時に説明を行いご理解を頂いています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	必要が生じた際に適時行っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	57%	43%		家族参加型のイベントで交流の場を設けて行きます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	24時間相談窓口を設け問題点はすぐに解決出来るようにしています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100%	0%	SNSも併用して随時行っています。	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	適時従業員研修を行っています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	手話や外国語にも対応できるように努力をしています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	71%	29%		自治会に参加しイベント案内をしています。回数を増やせるように努めて行きます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	100%	0%	適時見直しを行っています。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	86%	14%		基本的な技術向上の為の研修と合わせて従業員のニーズに沿った研修を行っています。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	86%	14%		基本的な技術向上の為の研修と合わせて従業員のニーズに沿った研修を行っています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	71%	29%		基本的な技術向上の為の研修と合わせて従業員のニーズに沿った研修を行っています。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	71%	29%		基本的な技術向上の為の研修と合わせて従業員のニーズに沿った研修を行っています。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%		